Top Interview

トップに聞く！

福岡銀行

精密機器の保管・輸送から設置まで、サプライチェーンを最適化・強化。災害対策拠点の構築にも挑む。

株式会社 ヒサノ

代表取締役社長
久保（くぼ） 誠（まこと） 氏

取引店／福岡銀行 熊本営業部
十八親和銀行 熊本支店

■会社概要

創業:1935年／**設立**:1968年／**所在地**:熊本市南区／**資本金**:1,000万円／**従業員**:84名（2022年2月1日現在）／**事業内容**:半導体製造装置（大型精密機器）輸送、理化学・医療機器・金融システム機器輸送、病院・店舗・事務所移転、営業倉庫、ピアノ・楽器輸送・調律、総合建設業／**事業拠点**:（本社）熊本市南区（営業所）熊本県菊池郡菊陽町、福岡県古賀市／**関連会社**:ヒサノトータルサービス株式会社

会社ホームページはこちらからどうぞ!

2022年6月に稼動を開始した「古賀倉庫」前（左から久保社長、五島頭取）

鉄道小荷物荷扱所として創業
ピアノ運送事業で急成長

半導体製造装置（大型精密機器）、理化学・医療機器・金融システム機器の輸送から設置、ピアノ等楽器の輸送から調律までを得意とする当社の原点は、戦前の鉄道小荷物の取扱所でした。先々代の当社社長・久野武雄（ひさのたけお）が1935年に熊本市内で荷扱所を設けて操業を開始しました。その後、事業転換を図りつつピアノの輸送で大きな成長を遂げ、1968年には有限会社久野運送の設立に至りました。

1970年代に入ると、一般小型貨物輸送事業免許を取得し、全日本ピアノ運送連合に加盟。熊本市南高江への本社移転、全国引越専門協同組合に加盟して同組合の「熊本西センター」となるなど、順調に社業を発展させていきました。

1980年代には「ピアノトータルサービス株式会社」を設立して、ピアノレンタルから修理、調律、買取、販売までを手がけると同時に、システムバス・キッチンの据付も行うようになりました。

時代が平成へと変わって間もない1991年、社名を現在の「株式会社ヒサノ」に変更すると同じくして福岡営業所を立ち上げました。1997年には本社新社屋を設けました。

現在、当社では半導体製造装置を始めとする精密機器、ピアノやコピー機などの中重量物の輸送から搬入・設置、引越や事務所移転などが事業の主な柱となっています。

また2022年6月には、過去熊本地震で被災した経験を踏まえ、災害時の対応強化を目的に福岡県大野城市の福岡営業所を福岡県古賀市に移転するとともに、精密機器に特化した倉庫を建設。倉庫業の許認可を取得して営業用倉庫の運営を開始したところです。

県庁と外務省での幅広い経験を
活かして経営再建に踏み出す

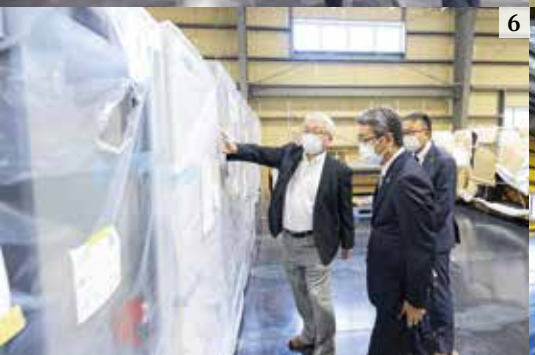
私自身の当社への入社は2004年です。1991年に熊本大学大学院を卒業後、熊本県庁に入庁しました。

入庁当初は土木部河川課などに勤務し、4年後に外務省へ出向。外務省では欧亜局大洋州課の所属に。ここ数年、新型コロナウイルス感染症対策分科会長として広く皆さんの知るところとなった尾身茂氏が1998年に世界保健機関（WHO）の西太平洋地域事務局長選挙に

5

3

1


6

4

2

立候補した際には、太平洋島嶼国の票集めに奔走するといった経験をしました。

その後、在シカゴ日本国総領事館にも勤務し、皇族や閣僚、国会議員のシカゴ来訪のスケジュール調整などに従事し、実に忙しい日々を送りました。

外務省時代の経験でもっとも思い出深いのは、1997年に『西サモア』を『サモア』に国名変更を担当したことです。外務省職員のなかでも国名変更に関わる経験をする者はそう多くはないため、当業界、あるいは一般企業の経営者のなかで、世界地図の表記を変えるような経験をした人は、まずいないのではないでしょうか。

さて、シカゴから帰国した際に知り合って結婚した妻・尚子（なおこ）は、当社の先代社長の久野賢治（ひさのけんじ）の娘で、つまり先代は私の義父にあたります。当時、義父は病で体調を崩しており、妻が専務として会社の舵取りを任されていました。ちょうど物流業界がIT不況のあおりで売上が低迷していた時期でもあり、妻とともに経営再建に取り組むために県庁を退職することを決意したのです。

久保社長

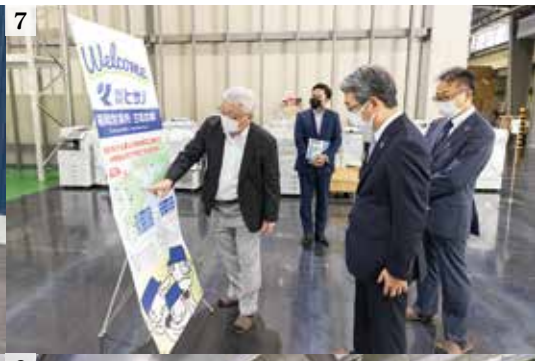
中小企業の範となる積極的なDX推進態勢

もちろんまったくの未経験で飛び込んだ物流業界でしたので、まず民間の後継者育成研修などを受講して、経営ノウハウや運送業の知識を学びました。それから、会社を建て直すために、社内ガバナンスの強化を中心に社内体制の刷新に注力。また、機械器具設置業への進出、引越・施工部門の強化にも取り組み、2008年に社長に就任しました。

当業界での経験がないまま後継者になったわけですから、当初は古参の社員から認めてもらえない状況でしたが、会社の業績が上がるにつれ、社員の信頼も得られるようになっていきました。

11

9



7

10

8

1.対談風景／2.社内DX（配車業務）の説明／3.古賀倉庫の全景／4.柱がなく鉄板が敷き詰められた倉庫／5.6.7.ピアノや医療機器など重量のある精密機器の輸送・保管・搬入・設置を得意とする／8.電動リフトも新調／9.地下水を汲み上げ、きれいな水に変える装置／10.災害時対応自動販売機／11.企業メッセージ

前列左2人目から久保社長、五島頭取、東（ひがし）熊本営業部長（福岡銀行）

経営再建の局面が一段落して、ここ数年でようやく、企業として次なるステップアップを図る段階へさしかかったと考えています。具体的には、二つの取り組みを挙げています。一つは、2019年に開始した社内DX（デジタルトランスフォーメーション）化。従来は紙による情報共有で進めていた配車業務をシステム化することで、人と車の手配が自動で行われ、配車結果や受注情報をデータで共有する仕組みに転換。また、クラウド上でデータを保存することで、本社と福岡営業所と出先、つまり現場や他拠点との情報共有を迅速化。紙での情報共有では多かった問い合わせ対応を減らす結果につながりました。

受発注・配車システムや給与計算システムなど、DXを推進するための自社開発は、ITコーディネーターやベンダーとの協力関係で進めたもので、2021年11月に経済産業省DX認定における熊本県内初の認定事業者となりました。さらには、DX推進態勢を構築した経営者として、NPO法人「ITコーディネーター協会」から最優秀賞となる「経済産業省商務情報政策局長賞」の表彰を受ける展開に。2022年版の中小企業白書にも、当社の取り組みが模範事例として紹介されました。

大規模な倉庫プロジェクトで一貫物流サービスを実現

そして、新戦略のもう一つが、先に述べた「古賀倉庫」です。2022年6月に稼働を開始したこの倉庫は、総事業費約10億円を投じた鉄骨平屋建ての倉庫兼事務所で、当社が取得した3,908坪の敷地に最大3棟の倉庫を建設する大規模プロジェクトの第1期となるものです。

精密機器に特化した倉庫の建設、倉庫業の許認可を取得しての営業用倉庫の運営には、大きく三つの目的があります。第一が、精密機械の保管・輸送から設置までのサプライチェーンの最適化と強靱化。第二が、ドライバーの人手不足の課題解消、物流の効率化・環境対策を目的とした共同配送。そして第三が、災害時に早期に業務を再開するための災害対策拠点の構築です。災害対策拠点という意味では、災害時に地域住民が一時避難して宿泊し滞在できる機能も備えています。

この拠点の稼働によって、従来の輸送・搬入・設置までのワンストップサービスに加え、組立等の荷役や保管業務も含めた一貫物流サービスの提供が可能になりました。

「神は自ら助くる者を助く」の言葉を胸に刻んで前へ

一時の危機的状況を脱して経営が軌道に乗ったとはいえ、私が社長に就任した直後のリーマン・ショック、東日本大震災や熊本地震、そしてコロナ禍と同様に、予期せぬ逆境がいつまたやってくるかはわかりません。先の見えない状況においても事業継続と発展を続けていくには、常に事業機会を追求する、革新的で能動的な経営者の行動が不可欠といわれています。さらにいえば、試行錯誤を伴う戦略・市場変更、つまり、攻めの事業転換を遂行する資質が経営者に問われる時代になったのかもしれません。

経営者としての私の原動力となっている「神は自ら助くる者を助く」という言葉。人に頼らず自立して努力を続ける者には神の助けがある。自らを変革していく努力が、今後を切り拓いてくれるものと信じ、英語のブラッシュアップとMBA(経営学修士)取得を目標にしながら勉強に励んでいます。わが国の基幹産業である半導体、人々の命と健康を守る理化学・医療機器、ライフラインとして重要な金融機関ATMなど、社会を支える産業用機械に関わる社業を社会的使命と捉え、これからも積極的に事業を展開してまいります。

■ インタビューを終えて

福岡銀行　取締役頭取　**五島 久**

当社は、戦前の鉄道小荷物取扱所から、戦後にピアノの運送事業で地域有数の企業へと躍進された後、時代のニーズを捉えて社業を拡大されました。現社長が経営を引き継がれて以降は、ご経歴において身に付けられた多角的視点を活かし、事業の立て直しと利益率向上に力を注いでこられました。

近年は、経済産業省DX認定で熊本県内初の認定事業者となられ、またこの度、一貫物流サービスを目指した古賀倉庫を稼働されました。今後も半導体生産拠点として注目が集まる熊本で、更なる飛躍を遂げられることを期待しています。

Top Interview

トップに聞く！

熊本銀行

九州最大級の設備を導入して高品質なステンレス配管加工を実現。確かな技術でグローバル企業へ。

株式会社 出田産業（いでたさんぎょう）

代表取締役会長 出田 浩一（いでた こういち） 氏

代表取締役社長 出田 広大（いでた こうだい） 氏

取引店／熊本銀行 益城支店

■会社概要

設立:1984年／**所在地:**熊本市東区／**資本金:**1,250万円／**従業員:**51名（2022年8月現在）／**事業内容:**管工事、機械器具設置工事、電気工事、ヘッダー・タンク製作、架台製作、ステンレス加工、酸洗設備／**事業拠点:**本社、福岡営業所、香椎事務所、沖縄営業所

会社ホームページはこちらからどうぞ!

2020年に稼働を開始した新工場前（左から出田広大社長、出田浩一会長、野村頭取）

産声を上げた熊本から福岡や沖縄へ進出

当社の歩みは、1984年に現会長である私が、勤めていた鉄工所から独立して「有限会社出田産業」を立ち上げたところから始まりました。受注した配管工事を手がけるなかで、配管に対する加工設備の必要性を実感。取引先や地元の方との縁で土地を取得し、1993年、熊本市東区戸島町に工場を建設すると同時に工場の敷地内へ会社を移転させました。この移転を契機に当社の事業は周囲の環境と多くの縁に恵まれ躍進していくことになります。

2006年には株式会社へと組織変更。2015年に香椎事務所、翌2016年に福岡営業所、2018年に沖縄営業所を開設し、地場の企業様との信頼を構築してきました。

主力事業で社会インフラを支え産業界や人々の安全にも貢献

当社の発展を支えてきた主幹事業は管工事です。当社が手がける管工事のおもなものは「空調配管」「プラント配管」「消火配管」の三種類があります。

空調配管には、業務用空調機器に代表される空調設備に使われる冷水配管と温水配管、またその両方の機能をもつ冷温水配管、そして蒸気配管といった種類があります。当社では、商業施設、ホテル、工場、ビルなどの大型施設の空調配管加工と施工において実績を積んでおり、あらゆる生活者、ビジネスパーソンの快適な暮らしや仕事を支える活動を展開しています。

プラント配管は、半導体工場や薬品工場、食品工場などで使用される配管であり、パイプの中を流れる物によって適した素材が異なるという特徴があります。さまざまな生産現場のニーズにお応えする事業を通じて、多岐にわたる分野の産業界に幅広く貢献しています。

消火配管は、消火設備に用いられる配管で、万が一の火災に備えるために耐食性や耐震性に優れているのが特徴。消火設備の一部を担うことで、私たちは多くの人々の安全と財産を守る活動にも従事しています。

設計から施工までの工程を自社でまかなう強みを活かして

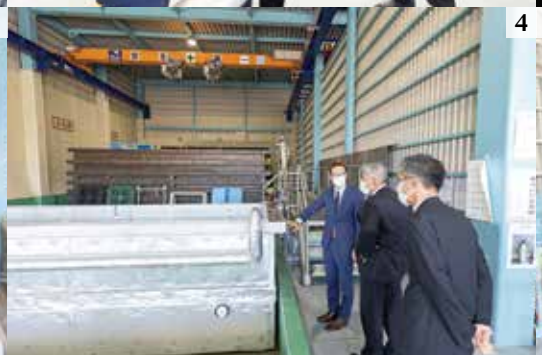
当社のこれまでの実績という点では、いわゆるサブコン、つまりゼネコンの下請けとして設備

5

3

1

6


4

2

工事を請け負う企業のパートナーとして、大型施設や公共性の高い施設の工事を長年にわたり手がけて、建設業界における多くの取引先から厚い信頼を獲得してきました。

同様の工事を請け負う企業が数多あるなかで、当社が優位性を発揮して取引先から信頼を寄せられるのは、当社が施工会社であるだけでなく、設計と製作においても自社のワンストップサービスで提供できる加工メーカーという一面もあるからです。

一連の工程すべてに関する豊富なノウハウを有しているため、現場ごとに生じる、ありとあらゆるニーズに対して、柔軟かつ迅速に対応でき、安全で質の高い製品とサービスを提供できるのが、私たちの強みといえるでしょう。

出田浩一会長

最新鋭の酸洗設備を有するステンレス配管加工場

ここからは現社長の私・広大（こうだい）が説明します。

2020年、本社北隣の農地跡を開発し、ステンレス配管加工を行う新工場が竣工。新工場完成を機に、それまで事業運営の陣頭指揮を執っていた父・浩一（こういち）は会長に、各営業拠点の開設に奔走していた私が新社長に就任し、さらなる事業拡大に向けた新たな経営体制が始動しました。

平屋建ての新工場の床面積は1,542平米で、加工場はそれまでの4倍の広さとなり、生産能力は3倍に拡大しました。そして、この加工場の大きな特色が、ステンレス配管の需要増加に対応するための、九州最大級の大型ステンレス用酸洗設備を導入したことです。

ステンレス配管は酸洗いすることで、さびや加工時の溶接焼けを洗い流し、耐久性の高い製品に仕上げられます。酸洗設備は大きいプールのような酸洗槽にステンレス配管を浸して酸洗する仕組みになっていますが、これは、手作業では洗いにくいような複雑な形の管や細い管の内側にもしっかりと酸を通すためです。

九州では数少ない新酸洗設備の導入は、新たな需要の開拓につながり、当社の仕事の幅を広げるきっかけとなります。さらには、当社の

11

9

7

10

8

1.対談風景／2.3.4.5.6.7.工場見学の様子／8.9.九州最大級の酸洗設備／10.ステンレスを使用して作られた神社／11.企業メッセージ

新工場にて。最前列左3人目から横手常務取締役、出田広大社長、出田浩一会長、野村頭取、井島支店長（熊本銀行）

独自性を強化するステンレスの品質保証における大きな武器にもなると考えています。

環境負荷軽減につながる ステンレス配管の啓蒙普及に注力

酸洗設備は、ステンレス配管の需要増を見込んでの導入ですが、建設設備業界の現状をいいますと、素材はステンレスよりも鉄（専門的には炭素鋼鋼管）が主流を占めています。

ステンレス配管は、耐食性が高い性質は知られているものの、鉄製にくらべてコストが高いイメージが定着しており、給水配管などの限定的用途での使用に限られる傾向があります。

しかしながら、ステンレス配管の有用性は耐食性に限らず、鉄製と比較して軽量で加工しやすいうえ、溶接時に発生する化学物質によってもたらされる作業者の健康リスクを軽減できる面があります。さらに、ステンレス配管は、製造過程や加工時に発生するCO_2量を削減できる、材料のリサイクルやリユースがしやすい、といった環境負荷の軽減につながるメリットもあるのです。

素材コストの高さは、製作および施工技術の工夫で工賃を抑える努力によってカバーできると、私たちは考えています。そのために、ステンレス酸洗時の品質や作業効率を高めるべく、

地元の熊本大学に材料工学の観点から知見を求め、産学連携を進めています。

また、ステンレス配管普及に向けては、施工会社の中で先進性を高めるために、ステンレス協会会員企業として各方面からの意見収集に取り組んでおり、必要に応じて実証実験も行っていくつもりです。

外国人技能実習生の受け入れで養われるグローバルな視点

当社に関するトピックをもう一つ。2018年からベトナム、中国などから外国人技能実習生の受け入れをスタートさせています。

当社の場合、経験豊かな現場職長を中核とした現場施工チームが九州一円で活躍することで「出田産業の技術力」を広く知らしめる成果をもたらしてくれています。その一方で、技能の習得に励む外国人技能実習生もまた、日本人従業員とともに当社の大切な戦力となっています。技術と文化の交流を通じて視野の広い事業展開を目指すなかで、企業としてグローバルに貢献していくための素地を養っていきたいと考えています。

出田広大社長

5年で事業の全国展開、10年で世界進出を目指す

2020年の新工場竣工とともに、私たちは次なるステージへの一歩を踏み出しました。これまで以上に高精度で高付加価値を求められる仕事に果敢に挑戦しながら、圧倒的な差別化を図れるだけの企業価値向上に全力を尽くしていく所存です。

具体的な目標として、まずは業種別売上高において県内トップ5を目指します。作業精度や効率を高め、環境負荷を抑える試みにも取り組みつつ高次元の品質とサービスを提供し、配管加工メーカーとして九州トップレベルの地位確立へ。そして段階的に、5年で事業の全国展開、10年で海外への進出を達成できるよう事業を推進していきます。

■ インタビューを終えて

熊本銀行　取締役頭取　**野村 俊巳**

会社設立以来、地域社会の生活と産業を支えるインフラ事業者として、管工事や機械器具設置工事などを中心に、確かな品質を提供され信頼と実績を重ねてこられました。

一昨年に完成した、高品質ステンレス配管の加工ラインとなる新工場は、従来の工場のイメージを刷新するようなモダンな外観が目を引きます。九州最大級の酸洗設備、環境に配慮した最新鋭の排水処理施設などを備えて、品質にすぐれ環境にもやさしい製品作りに取り組まれています。積み重ねた実績と独自技術をもとに、今後のさらなる飛躍を期待しています。

Top Interview

トップに聞く！

十八親和銀行

「海からの健康」を島原から全国へ。味にこだわり、品質第一を守り続ける。

株式会社 丸政水産（まるまさすいさん）

代表取締役社長
坂田 政浩（さかた まさひろ）氏

取引店／十八親和銀行 島原支店

■会社概要

創業:1950年／**設立**:1976年／**所在地**:長崎県島原市／**資本金**:9,500万円／**従業員**:163名（2022年6月現在）／**事業内容**:鮮魚介類の販売、水産物の加工販売、海苔加工販売、冷凍冷蔵倉庫業（保税）他／**事業所**:本社、有明（冷凍）工場、海苔工場、珍味工場、鮮魚部、贈答品センター有明店、長崎支社・長崎工場、福岡営業所

会社ホームページはこちらからどうぞ!

本社前（左から坂田社長、山川頭取）

先代の先進的な発想と仁義の心で安定供給と安定雇用を実現

当社の先代である父・坂田政男が、1950年に水産加工・販売会社として「丸政商店」をここ有明町で創業しました。当時水産業者の多くが屋号に「〇」がつけられていたこと、また、人の輪が繋がり、全て丸く収まるようにとの思いを込め「丸」を使用することに決めました。そして自身の名から「政」をとって屋号にしました。近隣の住人のほとんどが漁業に従事していたこともあり、創業当初は、自ら船「坂江丸」を建造し、遠くは五島・対馬まで行って、伊勢えび・イサキ等を買付けし、地元有明海では、直接漁船に横付けし海上でイカナゴ・芝エビ等を買付けして、九州一円の市場に卸していました。漁師にとっても、自分でわざわざ市場まで魚を持っていかずとも、海上で買い取ってくれる先代の手法は、とても喜ばれたそうです。1953年からは自社の加工場で水産物・煮干しの加工を始め、1959年には味付海苔の加工、1968年からは全国的にもまだ珍しかった冷凍水産物の加工を始めています。

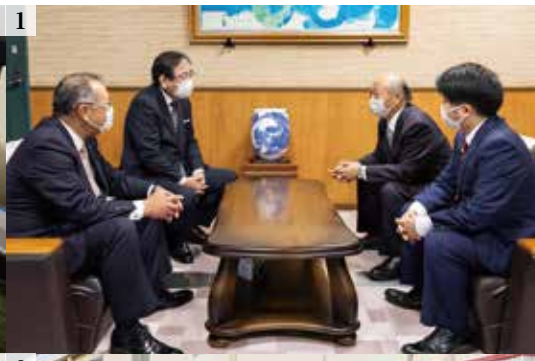
先代は、先進的な発想で事業拡大していくと同時に、非常に仁義を重んじる性格でした。当時、漁獲量によって仕入れ価格が不安定になる状況を見て、安定供給を実現するにはどうするべきかを考えた末、まだほとんど普及していなかった冷凍倉庫を建設。仕入れた魚介類を加工し冷凍保管する設備が完成したことで、価格の安定はもちろんのこと、従業員の安定雇用も確保できました。当時としては非常に画期的な出来事であり、このことは、今の当社の発展にもつながったと思っています。

「海のものならマルマサ」をキャッチフレーズに事業を拡大

1976年1月に「株式会社丸政水産」に社名を変更。現在は、島原市内に本社、有明(冷凍)工場、海苔工場、珍味工場、鮮魚部、贈答品センター有明店を置き、他に長崎支社・長崎工場、福岡営業所があります。長崎県を中心に、「海のものならマルマサ」のキャッチフレーズを使ったテレビCMもお馴染みとなり、「味にこだわり、品質第一の安心できる水産加工品」をモットーに、「海からの健康」を全国の

5

3


1

6

4

2

皆様の食卓にお届けしています。

主な取扱品は、ズワイガニやタラバガニなどのカニ加工品を筆頭に、海苔、タコ、冷凍魚切り身、煮干し、珍味など海のもの全般になります。2016年からは「島原市ふるさと納税」の返礼品にもなっており、現在は海苔、カニ、珍味など28品が登録され、北海道から沖縄まで全国各地からご注文をいただいています。一度購入いただいた方がリピーターになってくださることも多く、大変嬉しく思っております。

当社の主力商品のひとつである海苔の製品数は約100品にも上ります。こちらも2016年に、島原市の特産品に認定され、「島原スペシャルクオリティ」認定商品としてお墨付きをいただきました。海苔はすべて、本社がある島原市の目の前に広がる有明海産。佐賀県や福岡県、熊本県などの有明海産の海苔の生産量は全国一、品質や美味しさも高く評価されています。

坂田社長

その中でも「曙光（しょこう）（桐箱）」は、有明海で一番摘みされた中で、各漁協から推奨された、さらに選び抜かれた上等級を使用しています。一番摘みは、若い芽のうちに摘み採られることから、海苔本来の味が強く、風味も抜群。柔らかくて歯切れも良く、口溶けが良いのが特徴です。

1991年6月3日、雲仙普賢岳の大規模火砕流によって、多くの方が犠牲になりました。その時、当時の鐘ヶ江管一市長が、国へ復興のお願いに行かれた時に持参されたのがこの「曙光（桐箱）」です。あけぼのの光をほのかに浴びて、柔らかく、薫り高く、たおやかなる磯の風味で、当社ブランドとして最高級の製品です。

お客様に満足して頂ける製品作りと地域への感謝の思いを貫く

私自身は、長男だったこともあり、幼い頃から先代の仕事を手伝う中で、「いずれは跡を

11

9

7

10

8

1.対談風景／2.左から長崎支社・長崎工場の坂田専務、岩本支社長／3.海苔工場／4.できたての海苔を試食／5.トレイに自動振り分けされた海苔／6.パッケージの工程／7.桐箱に入った上等級の海苔「曙光」／8.贈答品センター有明店を見学／9.島原鉄道とコラボした「マルマサ味付海苔号」と「のり海苔でござる」「かけすぎでござる」／10.島原市のふるさと納税返礼品としても人気のタラバガニ／11.企業メッセージ

最前列左から坂田政士海苔工場長、坂田政文常務、坂田政浩社長、山川頭取、山口支店長（十八親和銀行）。2列目左端 吉田営業企画部長、右端 松本総務部長

継ぐ」という思いで、高校までこの島原で過ごしました。東京水産大学（現・東京海洋大学）を卒業後、米国シアトル大学に編入し、そのまま兼松江商株式会社（現・兼松株式会社）カナダ・バンクーバー支店へ研修者として入社しました。実際にはアラスカの一角、空港があるだけの極寒の地で「カニ他採取現場研修」だったのですが、大規模なカニ冷凍工場の現場を見て、学べたことはとても大きかったと思います。帰国すると、水産業全般の勉強のため東都水産株式会社と、仲卸業を学ぶために近畿魚販売に、それぞれ1年ほど在籍。そして25歳になる1985年に丸政水産に戻り、その1年後に取締役に就任、1999年に代表取締役社長となりました。

現在も先代と同様、自ら海苔の入札買付を行い、さらに各工場の責任者と共に鮮魚・魚介類の仕入れに携わっています。自らの目で観、手で触れて選び抜いた最高品質の原料からお客様に喜んで頂ける製品作りを目指しています。今は、私の子どもたちも入社し、長男は海苔工場の工場長として頑張ってくれており、跡を継いでくれることを期待しています。

創業して72年、私たちが受け継いできた

のは、魚介類への感謝、お客様、地域社会、取引先への感謝を忘れず、一品一品感謝の気持ちを込めた製品づくりにこだわり続けることです。その地域への感謝の気持ちの一つとして海苔業界が制定している2月6日の「海苔の日」には、毎年、島原市内の小中学校の給食に自社の味付海苔を寄贈しています。地域の子どもたちに「郷土の恵み」を感じてもらい、地域産業への興味や関心を高めてもらえたらと思っています。

また、2022年4月からは島原鉄道とのコラボ商品、味付海苔の「のり海苔でござる」、海苔ふりかけの「かけすぎでござる」の販売を開始しました。現在、主要駅での販売に加え、島原鉄道では「マルマサ味付海苔号」が運行しています。

さらに、取引先の皆様とは、先代が大のゴルフ好きであったことから始まった親睦コンペ「マルマサ会」を通じて、交流を深めています。毎月1回の開催で、2020年7月で555回の記念大会を開催し、2024年4月には600回を迎える予定です。一私企業のコンペで、これだけ数える例はほとんどないのではないかと思います。

家庭・子育ての両立を目指し従業員の働く環境を整備

当社を支えている従業員の多くは、地元の女性の皆さんです。そこで女性が活躍できる社会実現のための行動計画を2022年1月に策定し、仕事と家庭・子育てを両立させ、働きやすい環境づくりに取り組んでいます。目標は「産休後の職場復帰者の定着率を10％増加させる」ことです。希望者には、産休後の職場復帰に対し、児童が3歳の誕生日まで定時退社を推奨するといった取り組みを進めます。産休、育児・介護制度も充実しており、実際に出産後も多数の従業員が働いてくれています。

就業規則にも明記している「積極的に、かつ誠実に従業員同士の『和』をもってその業務を遂行する」ことができる会社であり続けるよう、そして何よりもお客様に本当に満足していただけるものをお届けできるよう、安定した雇用や経営の継続にこれからも努めてまいります。

■ インタビューを終えて

十八親和銀行　取締役頭取　山川 信彦

海の恵み豊かな有明海に臨むここ長崎県島原市で、70年以上にわたり水産加工業一筋に歩んで来られました。地元の方々の安定雇用、冷凍技術にいち早く取り組まれたことによる安定供給など、地域への貢献は計り知れません。

「海からの健康を皆様の食卓へ」をモットーに、味にこだわり、品質第一の安心できる水産加工品づくりへの誠実な姿勢を大切にされ、これからもさらに発展されることを心よりお祈りいたします。